

令和8年3月3日発行

栗原普及センターだより

「くりはら」

162号



**「農Lady 農Life」がつなぐ、
私たちのマルシェ!**

おおさき産業フェアへの出店
令和7年10月18日(土)

女性農業者支援のため、県北3普及センター（栗原、大崎、美里）合同で「みんなでマルシェ出店にチャレンジ」することを目標に全3回の講座を開催しました。

全3回の講座を締めくくる最終回は、令和8年2月17日(火)に実践後の振り返りと交流会を開催。自分たちの農産物を直接消費者に届けた経験を分かち合い、今後出店する際にはどんなことにさらに配慮すれば良いか学びました。あなたも地域の素敵な仲間とともに、一緒に一歩踏み出してみませんか？



令和7年度プロジェクト課題活動報告

No.1 加工用たまねぎの直播栽培技術の確立による収量確保

栗原地域では、令和4年度から「たまねぎ」を地域振興品目に位置づけ、関係機関と一体となり生産振興を図っています。大規模で作付する場合、育苗や定植作業にコストが掛かるため、資材費や労務費の低減につながる直播栽培技術の確立が急務となっています。

これまでの取り組みの中で、排水不良による生育停滞など様々な課題があり、収量確保に向けた障壁となっていました。令和8年6月の収穫に向けて、上記の課題について対策を検討し、生産者支援を行いました。

具体的には、農業・園芸総合研究所やヤンマーアグリジャパン株式会社などと連携し、作付ほ場への補助暗渠施工や心土破碎による透排水性の改善などに取り組みました。この結果、令和8年6月収

穫予定の直播たまねぎは過去最も良い生育となっており、高収量が期待されます。当課題については、取り組み内容を見直し、来年度も引き続きプロジェクト課題として生産者を支援していきます。



【生育中の直播たまねぎ】

No.2 金成有壁地区の活性化ビジョンの実現

金成有壁地区で令和2年に策定された農地整備を通じた地域活性化ビジョンの実現に向け、有壁創生会への支援を行いました。

活動の柱は、地元の萩野酒造株式会社との連携強化と農業法人設立の支援です。萩野酒造との連携では、酒米品種「吟のいろは」を軸とした交流イベントを支援し参加者へのアンケート結果を共有したほか、「吟のいろは」栽培の意見交換を通じて有壁創生会と萩野酒造の相互理解を深めました。

一方、法人設立に向けては、令和7年1月に発起人会が組織され、税理士等の専門家の助言を得て事業目論見書や定款の策定を支援した結果、令和8年4月に法人が設立されることになりました。

今後も引き続き、新法人の運営や「吟のいろは」の安定生産・萩野酒造との連携強化に向けて支援していきます。



【法人設立発起人会打合せ】

No.3 大豆栽培技術の体系構築による単収向上

令和6年度から、2経営体を対象に大豆の単収向上を目的とした支援を実施しています。

今年度は「大豆栽培チェックリスト」により作業が適期適切に行われるよう支援しました。特に、排水対策および雑草防除を重点的に支援しました。排水対策では、全ほ場において明渠施工および排水口への接続を徹底し、ほ場の排水性向上を図りました。雑草防除では、播種前耕起時の雑草埋没処理や非選択性除草剤の散布、茎葉処理剤散布時の吊り下げノズルを活用した防除などを支援し、雑草発生量の低減が確認されました。また、水稲作業との競合が課題となった経営体に対しては、

労働力に見合った作付計画への調整や、溝切り専用機の導入による作業体系の見直しを支援しました。

これらの成果を踏まえて、大豆の安定生産に向けた継続的な支援を行っていきます。



【大豆播種作業】

令和7年度栗原地域園芸振興セミナーを開催しました

令和8年1月30日(金)に栗原合同庁舎で「令和7年度栗原地域園芸振興セミナー」を開催しました。本セミナーは、さらなる作付け拡大が期待される「さつまいも」と「加工用トマト」の2品目をテーマにしたものです。当日は、カネコ種苗株式会社及びカゴメ株式会社から講師を招き、基本的な栽培技術や各社の取組について貴重な講演をいただきました。会場には、関係者を含め54人の方々に足を運んでいただき、非常に活気のあるセミナーとなりました。参加者が熱心にメモを取る姿が印象的で、地域の園芸振興に対する関心の高さがうかがえました。

今回のセミナーが、栗原地域における新規栽培者の掘り起こしや、産地のさらなる活性化につながるよう、生産者を支援していきます。



【園芸振興セミナー】

「農」の魅力を伝えるSNS活用セミナーを開催しました

令和8年2月12日(木)に、栗原合同庁舎を会場として、就農5年以下の新規就農者(雇用就農者を含む。)及び女性農業者等を対象に、「「農」の魅力を伝えるSNS活用セミナー」を開催しました。

このセミナーは、農業・農村において、多様な人材が生き生きと活躍することを目的に開催したもので、新規就農者や女性農業者など5人が参加しました。

当日は、WEBサイト関連業務の専門家で、YAGUIのWEBディレクター伊藤忍氏を講師に、スマートフォン等による魅力的な写真や動画の撮影方法、SNSへの投稿(紹介)方法などを学びました。講義では、スマートフォンで実際に撮影方法を試したり、既存のWEBサイトで情報交換したりと、農業者間の交流の場、農業経営者としてのスキルアップの場となりました。



【SNS活用セミナー】



【農産物の撮影方法を学ぶ様子】

有限会社耕佑が富県宮城グランプリ「みやぎの食」振興部門賞を受賞!

令和8年2月17日(火)、宮城県行政庁舎において、「富県宮城グランプリ」の表彰式が行われ、栗原市一迫の有限会社耕佑に「みやぎの食」振興部門賞が授与されました。この表彰は、「富県宮城」の実現に向けて、本県産業の発展及び地域経済の活性化に対する貢献が顕著である企業、団体及び個人を表彰することを目的として宮城県が実施しています。

有限会社耕佑は、長年、宮城県の葉菜類生産を牽引し、特にサンチュにおいては、東北地域でトップクラスの生産量を誇っている他、近年では、農業分野における外国人の雇用や農福連携にも積極的に

取り組んでおり、農業のみならず地域社会の様々な課題解決に貢献していることが評価されて、今回の受賞となりました。(敬称略)



【表彰状を知事から授与される伊藤代表】

栗原農業改良普及センターの活動や各種相談、技術情報(稲作通信等)はここから!⇒



くりはらスマート農業セミナーを開催しました

令和8年2月10日(火)に栗原合同庁舎で、「くりはらスマート農業セミナー」を開催しました。

農業者の高齢化や人手不足が進む中、作業負担の軽減と安定した営農を図るため、スマート農業技術の活用を目的として実施しました。

当日は、栗原農業改良普及センターから県のスマート農業推進の考え方やRTKの仕組みについて情報提供を行ったほか、BASFジャパン株式会社の佐久間氏から「ザルビオフィールドマネージャー」、クボタアグリサービス株式会社の石橋氏から「KSAS」について、機能や具体的な使い方について分かりやすく紹介いただきました。

管内でもほ場管理システムや自動操舵システム、ドローンの導入が進んでおり、参加者は作業負担軽減や省力化を実現するための有効な技術として高い関心を示していました。



【スマート農業セミナー】

栗原市果樹連絡協議会令和8年度りんごせん定講習会を開催しました

令和8年1月16日(金)に、栗原市果樹連絡協議会の「りんごせん定講習会」が栗原市金成地区で開催されました。

この講習会は、会員のせん定技術の向上を目的として実施されたもので、12人が参加しました。

当日は、農業・園芸総合研究所花き・果樹部果樹チーム村上リーダー及び庄子研究員を講師に迎え、実際にほ場の樹を用いて、せん定する枝の見極め方や今後の樹形の考え方などについて学びました。せん定演習では、講師に枝を切り取る理由を質問する姿や、病虫害防除に関する質疑応答が交わされるなど、活発なやり取りがみられました。

また、生産者同士による意見交換も行われ、りんご栽培に関する情報共有とせん定技術の向上を図る有意義な機会となりました。



【りんごせん定講習会】

令和7年度の品評会において栗原市の産品が多数受賞しました!

令和7年度宮城県農林産物品評会(うるち玄米部門)が、令和7年11月13日(木)に宮城県行政庁舎1階ロビーで開催されました。77回目となった品評会には、県内の水稻生産者から151点、うち栗原市内からは14点が出品され、入賞10点のうち栗原市内からは2点が入賞されました。

令和7年度宮城県花き品評会が、令和7年10月

17日(金)から19日(日)までせんだい農業園芸センターで開催されました。栗原市内の花き生産者から10点出品され、入賞30点のうち栗原市内からは4点が入賞されました。

受賞されました皆様、誠におめでとうございます。また、出品されました皆様、多数の出品ありがとうございました。

部門	受賞品目・品種	受賞者	受賞内容
うるち玄米	ひとめぼれ	株式会社伊藤農場	宮城県知事賞2等 農林水産省農産局長賞
	ひとめぼれ	有限会社狩野農友	宮城県知事賞3等
花壇用苗もの類	パンジー(ZERO)	岩淵 光男	金賞 宮城県議会議長賞
切り花・枝もの類	ディスパッドマム(キャンティ)	白鳥 拓也	銀賞
	ディスパッドマム(カリンバサーモン)	白鳥 拓也	銀賞
鉢もの類	ゼラニウム(カリオバダークレッド)	高橋 敦司	銀賞

